

中世小歌の研究 : 漢詩・漢語との関連性の視点から

著者	謝 林
ファイル(説明)	博士論文要約 博士論文要旨 最終試験結果の要旨 論文審査の要旨
学位授与番号	17701甲人社研第48号
URL	http://hdl.handle.net/10232/00032127

令和4年8月22日

鹿児島大学大学院人文社会科学研究科長 殿

最終試験の概要及び結果報告書

地域政策科学専攻 氏名 謝 林

学位論文題目

中世小歌の研究—漢詩・漢語との関連性の視点から—

(Medieval Kouta songs—the relevance of classical Chinese poetry and Chinese—)

最終試験の概要

学位(博士)論文に関する最終試験を令和4年7月25日16時30分より法文学部1号館101講義室にて実施した。まず、最初に申請者本人から論文の概要の説明が30分ほどなされた。その後、5名の委員が順にそれぞれの立場から論文についての質問を行ったが、申請者は一つ一つの質問に対し滞ることない明解な日本語で自己の主張するところを説明した。

委員からは従来の研究の限界を超えて新たな切り口で論が進められ、ひとつの漢語からその背後にある漢語の伝統や共通認識を取り出し、それ踏まえて小歌を解釈し直した点、序文に示されていないが小歌との関連性の指摘が少なかった阮籍の影響について明らかにした点など中世歌謡の研究を前進させる内容をもつものであり、特に序章、第一章、四章、五章の前半が優れていると評価された。

十分な研究成果が表れているなかで、時代による知識の受容の実態解明、中世末期の歌謡の創作の前後の歌謡との違い、貴族や僧侶による創作実態の解明など、難問ではあるが、解明しなければならない問題について委員から指摘がなされたが、申請者は現在の持てる知識を駆使してこれらの指摘に応答した。

最後に申請者から、前代の古代歌謡および後代の近世歌謡とのつながり、和漢連句との関係、日中歌謡の比較研究など今後の研究の展望が示された。

中世歌謡に関する先行研究を十分把握し、中国の漢詩はもとより日本の五山の僧侶たちの漢詩や関連資料についても十分な読解を行っている一方、論文においても、口頭においても明解な日本語を使用して論理的な思考が行えることが確認された。

以上により、試験委員は全員一致して博士(学術)の学位を与えるに十分な学力と見識を有するものと認定した。

授与する博士学位 學術

最終試験結果 合

試験委員

主査 丹羽 謙治

副査 竹岡 健一

副査 竹内 勝徳

副査 馬津 孝

副査 堀川 貴司